

目的のスキー場下山口に無事に着いた。途中の銅沼(アサマ)の景観は圧巻で五色沼には悪いが見劣りした。

・西吾妻山：今日も、快晴で無風。制限された時間設定の下で、ロープウェイと3リフトを乗継ぎ標高差500mを1時間で楽ちん登山となる。西吾妻山を過ぎた所には池塘や木道がいくつかあり、尾瀬によく似た雰囲気の花時が期待される。すでに紅葉の季節は終わっていた。標高1400~1000mの一带が紅葉の最盛期で、福島市までのスカイラインを含めて、バスの中は歓声の渦だった。

・計画時間と実績；上表最下段に記したように、太字区間での所要時間は計画より時間が掛った。安達太良山は頂上に行かなかったため、約1hr短い。アルプス歩きの時のように、我ら年齢では登りは標準時間×1.33倍、下りでは標準時間×1.1倍で計画したが、ビューポイントが沢山ありすぎてゆっくり行動となり、写真も思う存分沢山撮ったせいかもしれぬ。

・福島の人々の優しさ：宿(シャレ裏磐梯)のご主人や現地バス(昭和タクシー、菅野ドライバー)の親切さは言うに及ばず、帰路の福島駅で、見ず知らずの男性が西口から東口へわざわざ案内してくれた。

山登りは楽しい一方で、危険一杯で一步一步への入魂歩行で緊張の連続だが、団体行動ゆえ緊張が解けた節目でも一人一人の機敏な行動が望まれる。我らの年齢になるとほころびが出てくるのが気になった。

皆さんの御協力で事故なし・ヒヤリハットなしで楽しい記念登山が出来ました事に感謝すると共に、好天を授けてくれた天の神に感謝し、何時までも心に残る山行でした。

35周年記念登山(安達太良山・磐梯山・西吾妻山)感想文

坪田 宏

山友会に入会して6年目となり2009年の30周年記念行事には参加しなかったため今回は35周年記念登山に参加した。今年の夏の表銀座は天候に恵まれず、また秋山登山は山の噴火で急遽変更となり、モヤモヤとしスッキリしない気分なので今回は期待した。

夜行バスで10時間かけ福島県二本松バス停に降りると、地元のバスが待機していた。初日の目的地である安達太良山登山口に到着したが風が強くと山頂まで行けるか懸念されたが、準備体操後歩き始める。この山行では2班の班長に指名されたので班員を確認後、樹林帯の中のなだらかな幅広の登山道を歩く、勢至平分岐からくろがね小屋までの間、紅葉を眺めながら歩く、樹林帯のため風はそれ程強く感じなかった。硫黄のにおいが強くなり、くろがね小屋に到着、ここで昼食を取り、山頂に向かうが、斜面には高い樹木は無く、時折強風が吹くので飛ばされないようにストックで体支えるが、足を挙げた不安定な時に強風が吹きバランスを崩し倒れた、強風の中を歩くのは初めてでいい経験をした。峰の辻に到着すると谷を隔てた向こうに山頂が見えた。安達太良山の山頂を目前にして、強風のため登頂は断念する。下りは登りと違うルートで下山するが、ぬかるみと段差の大きい悪路であった、余り利用されないので手入れができてないようだ。あだたら溪谷自然遊歩道を経由し溪谷美を見て下る、天気は良かったが風が強くと山頂には立てなかったがまずまずの登山だった。

翌18日は日の出を見るため5時に起き、ペンションの近くにある小野川湖まで出かけたが朝食の時間に遅れるため引上げたのでご来光には出会えなかった。

6:30に宿のバスで磐梯山の八方台登山口まで送ってもらった、登山口駐車場には既に車があり、ガードマンが案内誘導をしていた。シーズン中の休日は駐車場と道路に車が溢れるようだ。

今日は快晴で無風の登山日和である、山頂まで標高差625mを2時間45分の予定で登る。ブナ林の中を歩くが木々の葉は落ち紅葉とは無縁の景色が続く。硫黄の匂いが漂う場所に到着した、中の湯跡である、朽ち果てた建物が見えたが、温泉は営業をしていないようだ。登りの休憩場所では、

足元には檜原湖をはじめ大小の湖やスキー場、遠くには雪を冠った飯豊連峰が見えた。急登を1時間30分で弘法清水に到着、何故か小屋の前にベルが有ったのでSLに続き鳴らす。清水がありコップが用意されていたので喉を潤す、うまい水でした。これから山頂まで40分、再び急登を登る、時間が早いせいか太陽に輝く樹氷が見られた。山頂には三角点と磐梯明神の祠が有り手を合わせた。全員で記念写真を撮る、CLは写真用の「磐梯山35周年記念登山」と書かれたものまで準備されていた。

弘法清水で早い昼食を取り、当初予定のルートと違う中ノ湯跡経由で裏磐梯スキー場まで下山した。下山途中に銅沼が有り、赤茶けた岩や沼の底が美しかった、沼の後方には1881年に爆発した磐梯山の山体が粗らしく今にも崩れそうにそびえていた、空の青、荒涼とした山肌と赤茶色の沼、木々の色合いが美しかった、今回の山行での最大のプレゼントである。裏磐梯スキー場を下り迎えるバスに乗り、五色沼を散策した、銅沼の景色を見た後の五色沼は印象が薄かった、休日で大勢の人が紅葉を楽しんでいた。登山と散策で今日はかなり歩いたが2日目も全員無事に宿に着いた。

3日目の目的地は西吾妻山です。7時に宿を出て、バスでの移動途中には見晴らしの良い所で景色を楽しみ、山形県米沢市の天元台ロープウェイ湯元駅に着いた。今日はロープウェイとリフトを乗継、北望台1820mまで一気に登る、ロープウェイ天元台高原駅を降りると、広いスキー場であった。生来運神経が鈍いので、25年振りに乗るリフトに上手く乗れるか、特に降りる時は気を付けなければならないがリフトを乗り継ぐうちに上手降りられるようになった。各人が準備体操後登山を開始する、岩がゴロゴロした急な登りを30分で中大巔に着く、ここから木道を暫く歩く、尾瀬に似ているとの会話が聞こえたが、写真でしか見たことがないのでよく判らないが、花の季節であれば素晴らしい景色に違いない。途中で湧き水が有ったので一口飲む。大きな岩を乗り越え足場の不安定な処を通り梵天岩に到着。これから15分で岩がゴロゴロした運動場みたいな天狗岩に到着。20分で西吾妻山山頂に着く、ここは樹林の中で何も見えない。西大巔までは西吾妻小屋を経由し、一度下り再び登るが途中、猪苗代湖や檜原湖、磐梯山が綺麗に見えた。西大巔で休憩、景色を堪能し後、デコ平にあるグランデコススキー場まで下山するが、下りは段差が大きく、落葉で滑りやすく、木の根があり歩きにくい道である、後ろを歩いていたIさんの足元がふらつき転倒寸前に大木に掴まり何事も無くホットした。予定より時間がかかったが目的地のパノラマゴンドラ山頂駅に到着した、CLのYさんと握手をして無事下山を喜んだ。ゴンドラの中から鮮やかな紅葉が美しい山が見えた。その後、バスで磐梯吾妻スカイラインを通り福島駅に到着、極楽湯で入浴と夕食を取り20時発の夜行バスで帰路に着いた。

今回の登山の行程、夜行バス、地元バス、ペンション、入浴と様々な手配していただいたYさんには本当にお世話になり有難うございました、また会計担当のAさんとRさん、その他の皆さん、期待通りの楽しい山行ができた事を喜んでいますが、班長の役目も無事終えられたのも皆様のおかげです、有難うございました。



毘沙門沼より磐梯山を望む

35周年記念登山 安達太良山 1700m・磐梯山 1819m・西吾妻山 2035m

秋月 康敏

山友会創立 35 周年の記念の年、記念登山の要望地アンケートがあった。あそこも行きたい、こっちも行きたいの中から、私は安達太良・磐梯・吾妻山を選んで提出した。その後役員会で諸々検討されて、今回の運びとなったのでしょう。

JR 京都駅・八条口から福島への夜行バスに 20 名のメンバーが乗り込んだ。3列シートなのでゆったりと座れると思っていたが、意外と狭いので少し落胆はあったが、JR 二本松には予定通りの時間に着いた。現地の貸切バスは親切なドライバーで、安達太良山へ行く途中に「二本松城跡」に立ち寄ってくれた。城跡に少し興味があるので中へ入りたかったのだが・・・。



二本松城跡

日本百名城のひとつで別名霞ヶ城・白旗城と呼ばれていて、桜の名所としても有名な城跡だ。

安達太良山：磐梯朝日国立公園の大きな標識を横目に見て登山道に入った。途中数ヶ所に馬車道の標識があった。紅葉が見事できれいなブナ林の中を歩く、少し風がきつい気持のいい登山日和。高度が上るに伴ってかなり風がきつくなってきた。行き交う人に確認すると、稜線に出ると立ってはいられない強風ようだ。せめて乳首は見ないと！やっとな峰の辻に出た、乳首が二つある！うまく表現したもんだ。爆裂の跡の写真を撮ったり、紅葉樹林の中をゆったりと歩いて満足でした。下山してから「あだたら溪谷自然歩道」、紅葉と無数にある滝と奇岩などを楽しみながらのハイキングは想定以上に感激でした。

ペンション：シャレー裏磐梯のご主人の心温まるお迎え・接遇に本当にうれしい思いでした。

磐梯山：夕べは少し飲んだかな・・・と思いながら、磐梯山登山口へ向かった、ペンションのご主人が送ってくれた。八方台登山口から約 30 分、きれいなブナ林を通り抜けると温泉跡があった。火事で燃えたのだろう、今は廃屋となっていた。高度を上げるに連れて爆裂の跡がきびしく見えてくる。弘法清水小屋でゆったりとした休憩。天気は快晴！メンバーにも恵まれて景色は最高だ！小屋を出ると上方は白く光っている、霧氷があるのかも・・・、今年初めての霧氷だ！



磐梯山の霧氷

太陽に輝く磐梯山の霧氷で、全員が写真家になってしまった。

山頂には「磐梯明神」の碑が安置してあった。民謡でも有名な磐梯山だから、甲武信岳にも匹敵する位の派手な標識でもあるのかと思っていたが、そうでもなかったのが少しがっかり。下山には銅沼（あかぬま）に立ち寄った。

九寨溝をも思い出す美しさだ！昨日に続き今日も仕上のハイキングは素晴らしい！

西吾妻山：ゴンドラに乗り、リフトを 3 回も乗り継いで 1820m まで来た。こんな山行でいいんかいな？と思っていたのだが、やはり日本百名山だけのことはあった。カモシカ台近くは木道で、以前に行った平ヶ岳によく似た感じだ。空は澄み切った青空で、山頂近くの大石が連なるのは蓼科山に似ていた。

磐梯吾妻スカイラインから見た、夕日の磐梯山全景・吾妻小富士。最終日も下山後の眺望などに満足。その美しさを表現するのがとても難しいで、せめて写真の掲載をしようかと思いましたが、私のアルバムと心の中に入れておきます。 次の 40 周年記念登山にも参加したいものです。

○ 夜行バス

京都から福島まで夜行バスを利用した。縦3列で非常に狭く、座席の椅子は後ろに気兼ねしていっぱい倒せない。ずっと座っているのはしんどいことです。帰りは焼酎を飲んでいましたが、ほとんど眠れなかった。

○ 宿泊「シャレー裏磐梯」

宿泊はシャレー裏磐梯2連泊である。付近にはリゾートペンションが多くあったが、スキー客の宿泊施設で今は閑散としている。この施設は非常に古く、建築資材もいいものを使っていますと主人の自慢であった。2人部屋で4人が共用のトイレです。料理は、なかなかのもので、夕食・朝食と満足した。

ペンションのポンコツ車で磐梯山の八方台登山口・下山後の五色沼へと親切に送迎していただき感謝に堪えません。山行後は、宿の談話室でいつものメンバーが祝杯を挙げた。

○ 強風の安達太良山

登山口の奥岳スキー場に着いた時から強風で心配した。樹林帯では少しましであったが、くろがね小屋に着いた時はますます風が強くなった。小屋で昼食し、強風ではあるが行けるところまで行ってみようということになり、蜂の辻まで山行した。そこは小高いところで風がますますひどくなっていた。その先は岩場ではなく普通の登山道であり、多くの登山客が歩いていた。もう少し行くものと思っていたが、リーダーが「この先へは行きません。帰ります」と言ったので残念でなりません。

リーダーが多くの人の意見を聞くとか、足腰の不安のある人には、しっかりした補助の人を付けるとか工夫をすれば、頂上直下まで行けたように思う。

○ 人気のある磐梯山

八方台登山口から登山開始。2時間ほどで弘法清水に到着。小屋の女将から冠雪の飯豊山・乳首の安達太良山・スキー場の西吾妻が見えるでしょうと存在を教えていただく。頂上は岩場で写真撮影。弘法清水の小屋あたりでは、登山客がいっぱいの人気のある山である。

下山途中に見たことのない強酸性の銅沼に寄った。水量が少なくなって黄色の地肌が出ていた。

○ すばらしい西吾妻

白布温泉天元台口より何回も乗り継いだリフトで終点北望台に着く、気温2度、梵天岩を超えて2時間ほどで西吾妻に到着した。この山は池とうあり、岩場の登山道あり、ぬかるみ有、等変化に富んでいる。西吾妻の頂上付近は広くて丘陵のようないい感じである。

頂上から西大巔を経てグランデコススキー場のリフト頂上に着く。4人乗りリフトでの下りの景色(紅葉)は素晴らしかった。

今回の登山は、素晴らしい天気にも恵まれてとってもいい気分での登山でした。バスから見る紅葉、登山中の紅葉。宿の接待・バスガイドの説明と大変満足の旅でした。お世話いただいた山下さんはじめ皆さんありがとうございました。



35周年記念登山 日別の感想文

1日目 <安達太良山>

「安達太良山」は受入れなくて

福島県の安達太良山は、高村光太郎の詩集『智恵子抄』に出てくる事で有名です。

【阿多多羅山の山のうえに、毎日でている青い空が、智恵子のほんとの空だという】

高村光太郎の詩集 「智恵子抄」

10月17日（金）朝、福島県二本松市に夜行バスで到着。午前9時過ぎに奥岳登山口から、反時計廻りで登山を開始し山頂を目指しました。山頂付近の天気予報は、低気圧接近で20m以上の強風が予想されていました。強風で奥岳から薬師岳へのゴンドラが運休していて、不吉な予感がしていました。

勢至平からくろがね小屋までの登山道の紅葉は、素晴らしくて感動でした。くろがね小屋内で昼食をさせてもらってから、山頂を目指しましたが、尾根の峰ノ辻に近づくと、時折凄惨な突風で転びそうになりました。峰ノ辻に到着すると、目前に安達太良山が、頂上がぼっこり小山の様に盛り上がっていて、別名「乳首山」とも呼ばれている通りでした。

CL山下氏の決断で、強風の為に登頂を断念して引き返す事に成りました。30分弱で山頂へいけるのに、山は逃げないが、もうチャンスはないだろうと思いつつ。あの強風では仕方がなかったが、百名山3座登山の1座目からの挫折で残念でした。一日目下山して、無事左膝の違和感もなく過ごせた事に感謝して、残る2座登山が好天に恵まれて完登出来る事を願って夕べを迎えました。

（石田 輝夫）

安達太良山と言えば、高村光太郎の智恵子抄の「あれが阿多多羅山 あの光るのが阿武隈川」を思い出します。ツアーパンフレットの紅葉の季節は必ず写真付で案内が出ており、その紅葉の美しさに行ってみたいなあと考えていました。35周年記念登山候補に挙がっていたのでこの機会にと参加しました。安達太良山登山当日は、強風で風速20m。バスを降りた途端、帽子は飛ばされそうになり、かなりの寒さを感じました。今日はやはり登頂は難しいだろうなと思いながら登り始めました。擦れ違う登山者達も強風で途中で引き返して来たという人達ばかりでした。私達も強風に踊らされながら、ピークは少し過ぎたようですが、まだまだ美しい紅葉を楽しみました。途中のくろがね小屋で昼食を取り、これから行ける所まで行って引き返すという事になりました。時折飛ばされそうな強風に足を踏ん張りもう少しで頂上という<峰の辻>で引き返しました。とても残念でしたがCLの判断に委ねました。翌日の磐梯山、翌々日の西吾妻山は天気に恵まれ、紅葉の美しさを堪能しました。綿密な計画を立てて頂いた山下CL、染矢SL、会計の頼さん秋山さんお世話になりありがとうございました。（岡本 綾子）

夜行バスに揺られ二本松に着いたのは、10月17日の8朝時前。寝不足気味の体に「これから安達太良山に登るんだ」と言い聞かせ、中腹にあるくろがね小屋まで林道を歩く。赤や黄や緑の秋の山が、雲が流れて筋状に暗くなったり明るくなったりする。きれいだ。小屋で昼食を済ませ、風や寒さの対策をして外の出ると風のきついこと。歩けないほどの強風が時々襲ってくる。何かに掴まらなさと飛ばされそう。峰の辻まで登って来た。安達太良山は目の前だ。稜線歩きは危険で引き返すことになった。残念。安全第一を考えると仕方がない。先頭の染矢さん お疲れ様でした。下山途中、木道の脇道に入った。川の流れ。石の壁。赤や黄の楓葉。秋を感じながらしばらく眺めていた。（堀 正子）

四日間お疲れ様でした。CL・SLは大人数の時は大変ですね。3山共にそれぞれの山行の楽しさがありましたが、多分、何年か先に思い出せるとしたら、安達太良山でしょう、何故かと言えば、順調に支障なしに登った山は存外記憶に残っておらず、苦勞した山、途中で無念にも断念した山は何時までも残っているのですよ。頂上目前での撤退は勇気がいる事です。今回の判断は妥当であり賢明であったと思います。(悔しかったです)これから先もう一度いけるかは分かりませんが是非リベンジしたいです。「強風の安達太良山待っとれよ」 (園上 雅晴)

< 3山に登って >

お天気も良く3山完登といたいのですが安達太良山は手の届きそうなところまで登ったのですが、あまりの風のきつさにリーダーさんの「勇気ある撤退宣言」となりました。翌日は磐梯山頂上から五色沼散策と秋満喫の大満足となりました。いよいよ今日でおしまいの西吾妻山、ロープウェイとリフト3つも乗り継ぎ、北望台・梵天岩・西吾妻山・西大巔へ。木道あり岩場あり池塘ありスリルいっぱい楽しく歩きました。帰りはバスで磐梯スカイラインを運転手さんのガイドつきで素晴らしい景色の中をドライブ！福島駅で極楽湯に入り予定通り京都駅に朝6時過ぎ帰ってくる事が出来ました。お世話して下さった方又20名の皆様ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。



*安達太良山を望む(峰ノ辻より)

< SLの感想 >

SLの役割のなかに感想文指名とある。今回3山登頂でひとつの山に集中するのは避けたいとの思いがありました。初日の夕食時思いを説明し山名とお名前を記した用紙を配布。「強制ではありません」とつけ加えた。帰宅後、素晴らしい大自然の景観に魅了された感想が次から次へと入った。ご協力ありがとうございました。皆さん大満足の様子が伝わって来ました。35周年記念登山アンケートで1位になった東北3山、私もNo.1に希望しました。山下さんの綿密なる計画には驚くばかり、出発前には噴火・天気・気温・風・電波等きめ細やかな情報が届く。ボランティアなのにかゆい所まで手が届く、恐れ入ります。石田さん作成の行程と説明も **good!** 皆それぞれ得意分野を発揮されて山行が行われた事に感謝します。他人数になるとどうしても健脚者・超ゆっくりと差が出てトップとラストの間がかなり開いてしまいます。比良の夏山トレーニングでは皆について行くのに必死だったのに、今回は後ろから「速い速い」と言われっぱなし。メンバーで随分差があるのだと実感。余裕のある人達(大半)は写真撮影や風景をゆっくり眺めていた。いつもお元気で山友会を引っ張って来られた方も年には勝てないようだ。CLは下山後も人のお世話に振り回された。人に迷惑をかけないようにしましょう！ (染矢つや子)

2日目 <磐梯山>

半世紀を経て磐梯山頂に立てた！！

私にとって磐梯山は特別の思い入れのある山である。私が学生生活2年目の夏休みに友人二人から突然磐梯山と蔵王山登山に誘われた。当時私は体重80キロを優に超す肥満体でその上運動らしきものは何もせず登山に対する興味も全くなかったので即座に断った。しかし友達の勧誘はしつこく粘りに負けてとうとう一緒に登るハメになってしまった。表磐梯から登り山頂を経て裏磐梯に下山して桧原湖畔でキャンプするのでテントと食料を担いで登るという計画を聞いて驚いたがもう後へは引けなかった。

登山前日は猪苗代湖畔に泊まり翌朝登山口までバスで行き登り始めた。当日は朝から快晴で真夏の太陽がガンガン照り出した。表磐梯は樹林帯がほとんどなく坂の草原を歩く感じだった。灼熱の太陽を浴び、すぐに持っていた水筒は空っぽになってしまった。これは大変なことになってしまったと気付いた時は後の祭りだった。幸いというべきか前日降った雨で登山道の所々に水たまりが出来ていたので汚いという意識よりも、とにかく水が欲しい一心で貪り飲んだ。幸い3人ともそれで体調を壊したり腹痛を起こしたりはしなかった。それと並行して私を苦しめたのはザックの重さだった。非力の私が背負ったザックは遠慮なく方に食い込み体力不足がこたえて登頂は困難を極めた。我々の横を小学生の集団がスイスイと登って行くのを見て羨ましく思った。疲労困憊しながら牛歩の如くの歩みで数時間後山頂に立った。登山に来たことを後悔し感動や感激はなかった。実に53年前の私にとって悪夢の登山だった。

ただ疲れきって当然のことながら二度と登山はしないと誓った。

それから半世紀を経て再び磐梯山頂に立てた。今回は感無量だった。快晴で360度パノラマの展望は素晴らしかった。しかし初登頂時の山頂の様子と全く甦ってこなかったのには驚くとともに、時の流れを感じた。半世紀を数える間に人の手によって、あるいは自然の力によって徐々に変容を遂げたのかも知れない。長年月を経ると人間の記憶が薄れていくことに一抹の寂しさを感じた。今回の登山は爽快だった。登りは結構急登で霜溶け道は滑り易く慎重さを要したが、体力的にはそれなりの自信があったので余裕を持って登れた。現在の私に確実に二十歳の時より体力はある事を実感した。リベンジという気持ちはなく半世紀ぶりに再び山頂に立てた喜びの方が大きかった。磐梯山は私にとって本格的な山へ挑戦した初めての山であり、二度と登山はしないと決意させた山であり、長じて登山に興味をもたせてくれた感慨深い山である。ほろ苦い思い出と共に青春を実感させてくれた山に半世紀ぶりに再び立てた幸せを感じた。
(遊佐 研治郎)

前日の安達太良山では強い風に悩まされましたが、磐梯山では素晴らしい天気にも恵まれました。途中展望の良い所では眼下に桧原湖・小野川湖など見ながら登り頂上では明日登る吾妻山・昨日の安達太良山、遠くには雪を冠った飯豊連峰等360度の大きなパノラマを楽しみました。また下山途中に寄った銅沼（アカヌマ）では赤茶けた地面と綺麗な水の色 磐梯山の火口壁を見てカメラマンの皆さんはパチパチと忙しそうでした。下山後は五色沼の散策のおまけつきのとても楽しい1日でした。最後に企画して下さった山下さん、染矢さん他 参加者の皆さんありがとうございました。

(上田 秀子)

2日目のお天気は最高の登山日和で磐梯山に登りました。Yさんの「今日はハイキングです」との言葉を頂き登りました。紅葉も最高で山が黄金になって素晴らしい磐梯山に登ることが出来山友会35周年に感謝しております。五色沼の一つ銅沼は素晴らしい景色で感激しました。紅葉もなかなか山が黄金に染まる時に会う事がなく今回は山の美しさに感謝！お世話して下さいました方々に感謝！感謝の登山でした。有難うございました。(大林 京子)



後方天狗岩・桧原湖（弘法清水小屋前）

エンヤ一會津磐梯山は。宝の山よ 笹に黄金が エーマタ なり下がる。

(磐梯山にお宝があるのではなく、山の周辺には木の実、山菜、果物、お米等
たくさん取れる事から歌われたとの事でした)で 有名な磐梯山への登山

今回 京都田辺山友会35周年記念三座山行は、天気にも恵まれ三日間とも好天も、初日の安達太良山では9合目(?)付近では突風が吹き荒れ登頂断念。

二日目の磐梯山登山は、前日安達太良山登山のお釣りがかえる程の好条件下で八方台登山口より登山開始 途中 磐梯山の斜面に霧氷を見る事ができ一同感動 10時前 磐梯山(1,819m 18歳 19歳の新人バスガイド教育で山の高さを年齢で覚えさせる)に登頂。360度の大自然が展望でき下山するのが惜しまれ、磐梯山 山頂にて万歳後、岡部小屋(山頂より少し下の避難小屋)より再度山頂へ登頂

別れを惜しみつつ下山開始。荒々しい山肌と優しい山肌を持ち合わせた磐梯山に(万歳) 下山の途中銅沼(あかぬま)を見た段階では小さな沼のイメージも銅沼に到着後一変、登頂の疲れを忘れさせる光景は全員言葉を発する事の出来ない他に例え様のない感動を覚えた。『隠れ穴場』と言われる所以が良く理解出来た。明日の吾妻連峰最高峰の西吾妻山(2,035m)登頂への鋭気を蓄える為、皆さんおとなしく?床についた。行事スケジュール通り今日も消化でき、山下リーダーはじめ関係役員にお礼申し上げます。(若林 憲治)

前日安達太良山は強風のため頂上目前で断念したため、この「磐梯山」は是非登りたかった。天候にも恵まれ、足元はもうひとつよくなかったけれど、山の紅葉は素晴らしかった。弘法清水から山頂へ、

そして再び弘法清水、ここで昼食。ここの眺望はとてもよかった。明日むかう西吾妻が正面に見えていました。なにより素晴らしかったのは下山途中に見た、銅沼、赤池です。みんな、感嘆の声を上げながら写真を取りまくっていました。ここがやはり一番の見どころだったと思います。そのあとまわった五色沼が色あせて見えました。次の日に疲れを残さないよう、早めの帰宿です。

(秋山 正子)



3日目 <西吾妻山>

吾妻山には2003年9月に登ったが、ガスで視界も悪くて全く印象に残っていない日本百名山の一つでした。天元台のロープウェイとスキーのリフトを3つ乗り継いで1,820mの地点まで登るので頂上(2,035m)まで200mです。東北で1,900m以上の峰が10座の近く連なっているが独立峰が無い、深田久弥が何故この山を選んだのか？今日はハイキング気分で来ましたが北望台から梵天岩までは結構な登りです。前回と違い素晴らしい天気にも恵まれて高原の地塘の散策もあり、ヤットハイキング気分と成りました。最高峰の西吾妻山は笹藪の中に標識が立っているだけで集合写真を撮る場所もなく、証拠写真1枚だけ撮り下山しました。再度登りかえしての西大嶺は展望が素晴らしい。ここからは展望が開けて南に磐梯山が又北遠方には暴風で頂上を断念した安達太良山の山頂が顔を出している。帰りの磐梯スカイラインから見た吾妻子富士(1,707m)の方が美しいが、百名山は最高峰の西吾妻山に譲ったのだろう。下山は石やぬかるんだ登山道で歩きにくく、ゴンドラのグランデコ山頂駅まで600mの下りは長かった。帰りのスカイラインから見た磐梯山に映える夕日が最高でした。(山口 博)

深田久弥は日本百名山で、西吾妻山に関して次のように書いている。

総称の吾妻山は非常に広範囲で、その最高峰は西吾妻山である。山群中唯一の二千米峰であるが、近隣の峰々がそれに近い高度を持っているので、飛びぬけて主峰という感じはしない。

前日磐梯山頂から眺めた西吾妻山は、磐梯山とは対照的に飛びぬけた主峰はなく、西大嶺からなだらかな山なみをつらねており、天元台ロープウェイとリフトを乗りついで標高1,820mの北望台から標高2,035mの西吾妻山迄、のんびりとした山歩を期待させた。

北望台から急坂を登った、1,940mの「かもしか台展望台」からは、期待どおり広々とした湿原の向こうになだらかな西吾妻山が望めた。木道の湿原をのんびり歩くと、予想に反し、途中で梵天岩等の展望のよいところはあるものの、石ころの急坂と、ぬかるみの足元が悪い樹林帯の道が西吾妻山まで続き、歩く



西大嶺山頂 (標高 1,982m)

のに気がつかった。

西吾妻山山頂は、頂上の道標あるものの、狭く、眺望はきかず、日本百名山の頂上にしては、もう一つの感があった。西吾妻山から少し下り、登り返すと西大嶺に着いた。西大嶺からは、磐梯山、猪苗代湖、西吾妻山、安達太良山等の眺望を堪能でき、西吾妻山のものたりなさを取りかえすのに十分だった。西大嶺からは、3日間の登山で疲れのたまった脚をかばいつつ急坂を用心してグランデコまで下り、3日間の山歩きを無事終えることができた。

グランデコのゴンドラや福島駅までの磐梯吾妻スカイラインの車窓から眺めた紅葉は、3日間の山歩きの疲れをいやしてくれるのに、十分な美しさだった。世話役の山下さん、素晴らしい企画ありがとうございました。(樋口 修)

三日目の山、西吾妻山はロープウェイ使用で簡単に登れる山だと思っていましたが大間違いでした。もちろん苗場山の台地みたいな平らな地形もあり、また木道も沢山ありやさしい山かと思えば岩場が多く結構なドロドロの道、根っこも多く足元注意でした。西吾妻山は眺望が悪くて何も見えませんでした。西大嶺では素晴らしい景色、昨日登った山々が美しく青空に映えていました。隣のゴンドラは可愛い4人乗りで途中の紅葉が素晴らしく写真に、目に焼き付けて帰りました。また良い仲間にも恵まれまして楽しい山行ありがとうございました！！

35周年企画担当の皆様大変お世話様でした。有難うございました。

(頼 礼子)

35周年記念登山に参加して

山口 博

出発日の前日に担当CLの山下さんから35周年記念の登山だから何か話をして欲しいと依頼の電話があり、山友会の歴史について30周年の記念誌「30年のあゆみ」を改めて見直ししました。新しく入会された方も多く成りましたので少し延させていただきます。

創立は1980年で「山城山岳会」としてメンバー11人で発足されました。現在創立時のメンバーで中島さん山田さんが活躍されています。1983年に「田辺町山友会」に改称し、その後1987年に現在の「京都田辺山友会」に改称されました。

創立20周年記念山行は北海道利尻岳と礼文島で1陣25名2陣20名が参加されました。25周年記念登山は谷川岳、武尊山、赤城山で21名の参加、初めての海外登山、韓国 雪岳山は15名参加されました。30周年は富士山0メートルからの登山と京都一周トレイル京田辺を出発して東山、北山、西山を周って14回で京田辺に帰って来ました。海外は韓国済州島ハルラサンで21名が参加、台湾玉山を計画しましたが台風で登山禁止となり残念ながら登れませんでした。



今回の35記念登山は東北日本百名山3山が計画されました。16日夜行バスで出発し17日朝福島二本松駅に到着し迎いのバスで登山口へ、安達太良山は高度を上げるに伴って強風でCLが登頂断念を決定して引き返しました。飯豊山に登った時もあと1キロの切合小屋で登頂を断念した事が有りました。

山は逃げませんので又の楽しみにして下さい。4、5人のパーティなら登ったでしょうが20名のパーティではとても無理で正しい判断でした。安達太良山は強風の名所で前回登った時も頂上付近は立って歩けない位の暴風でした。この山は強風がしばしば起きるようです。

18日。今日の磐梯山は昨日と違って秋空の晴天です。宿の車で八方台登山口まで送って貰い、8時に登山開始し弘法清水小屋には9時に到着しました。

休憩と記念撮影をして頂上へは9時50分に着きました。頂上からは360度の展望が開け北に昨日の安達太良山の頂が遠くに見え、東に明日登る吾妻山の連峰が近くに見えます。前回登った時は曇っていたので今回は大満足です。

下山道は予定した道が判り難く荒れて居る様で元の道に戻り途中からスキー場に降りました。登山道から見ていた銅沼が近くに見られて幸運でした。五色沼の観光客もここまでは来られないのでここが見られたのはラッキーでした。

五色沼を1時間ほど散策して宿に帰り、バスで掛け流しの温泉に送って貰い温泉に浸かり疲れを取りました。温泉に行かない人は宿で酒盛りが始まっていました。

19日。最後の西吾妻山は現地の貸切のバスで天元台ロープウェイ駅まで送って貰い、天元台高原駅からとスキーリフトを3つ乗り継いで1820mの北望台まで移動、頂上へは200mの登りですが急な登りは息苦しい。先月の青森へ夜行バスでの八甲田山登山と今回の夜行バスの疲れが出た様です。

西吾妻山の頂上は笹藪の中標識だけで直ぐに下山しました。縦走路の西大巔に登り昼食になりました。ここからは素晴らしい展望で眼下の猪苗代湖の先に福島市の市街が、飯豊連峰や東北の山が展望出来て素晴らしい眺めです。2003年に登った時は雨で黙々と西吾妻を往復して全く印象が有りませんでした。

下山の裏磐梯スキー場へのゴンドラ駅グランデコまでの下山道は石と滑り易く歩きにくい道で予定より時間が掛かりました。帰りの磐梯スカイラインは素晴らしい紅葉を愛でながらのドライブでした。沈む夕陽が磐梯山に映え素晴らしい景色を見て感動しました。

新幹線福島駅内の極楽湯で疲れを取り夕食後夜行バスで無事京都に帰って来ました。

半年前から計画とバスや宿の手配など担当して頂いたCLの山下さんSLの染矢さんお世話になりました。同行の皆様楽しい山行有り難う御座いました。